

金錯銘鉄剣の語る古代

昭和53年(1978)、稲荷山古墳出土の鉄剣から115文字の金錯銘が発見され、「世紀の大発見」と騒がれました。鉄剣の銘文を今の言葉に直すと、表は「辛亥の年(471) 七月中に記す。(私の名は) ヲワケの臣。遠い先祖の名はオホヒコ、その子(の名) はタカリノスクネ、その子の名はテヨカリワケ、その子の名はタカヒシワケ、その子の名はタサキワケ、その子の名はハテヒ」裏は「その子の名はカサハヨ、その子の名はオワケの臣。先祖代々杖刀人の首(大王の親衛隊長)として仕えて今に至る。ワカタケル大王(雄略天皇)の朝廷(住まい)が、シキの宮におかれておるとき、私は大王が天下を治めるのを助けた。何回もたいて鍛えあげたよく切れる刀を作らせて、私と一族のこれまでの大王に仕えた由緒を書き残しておく」となります。この鉄剣は、文字記録がほとんどない5世紀後半の和朝廷の様相などを伝える超一級の資料なのです。



金錯銘鉄剣

では、この鉄剣と共に稲荷山古墳に葬られた人物はヲワケの臣なのでしょうか。稲荷山古墳に葬られた人物とヲワケの臣との関係については、「ヲワケの臣は、大王が天下を治めるのを補佐した近畿地方の豪族で、ヲワケの臣本人が関東地方に派遣され、鉄剣と共に稲荷山古墳に葬られた」「ヲワケの臣は近畿地方の豪族で、杖刀人として近畿地方に赴いた北武蔵地域の豪族の子弟が杖刀人の首であるヲワケの臣に仕え、功績が著しかったのでヲワケの臣から鉄剣を与えられ、鉄剣と共に稲荷山古墳に葬られた」「ヲワケの臣は北武蔵地域の豪族で、近畿地方に赴いて杖刀人の首を務め、鉄剣と共に稲荷山古墳に葬られた」という3つの説があります。どの説にもそれなりの根拠があり、新資料が発見されない限り決着はつかない状況ですが、いずれにせよ鉄剣と共に稲荷山古墳に葬られた人物が和朝廷と強いつながりを持っていたと推測されます。

(文化財保護課 中島洋一)

こぜに with フラベス ちゃん行く!
 はちまんやまこふん 八幡山古墳

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



八幡山古墳は、藤原町にある直径80メートルの円墳で7世紀前半に造られたと考えられているんだ。

八幡山古墳の特徴はなんといっても石室があること。この石室は、前・中・後室の3室からなっていて、全長は16.7メートル。また、奈良県明日香村の石舞台古墳に匹敵する巨大な石室であることから「関東の石舞台」とも呼ばれているんだ。

石室は土・日曜日、祝日(年末年始を除く)に公開しているから、ぜひ見に来て、古代ロマンを感じてくださいね。

今月の表紙 11月10日に開催された第34回行田商工祭・忍城時代まつり。恒例イベントとなっている武者行列に、成田長親と甲斐姫が馬に乗って登場しました。その姿を一目見ようと会場を埋め尽くした観客に対して、笑顔で手を振る長親と甲斐姫。会場となった市役所周辺は、まるで戦国時代にタイムスリップしたかのようでした。(関連記事20ページ)

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

